



愛知東邦大学

海外研修 A

活動報告書

IN フィリピン セブ島

H30 2/25~3/10

海外研修に参加して

それぞれ参加しようと思ったきっかけは何であれ、私たちはこの二週間、フィリピンの様々な社会問題を考え、また、現地のサンカルロス大学の仲間と沢山のコミュニケーションをとり、国境を超えた人と人との繋がりを学びました。普段の大学生活ではなかなか体験できないことをして、私たちは大きく成長しました。

日程の説明

2.25 日本出発・フィリピン到着 → 2.26 USC Language Academy オリエンテーション →
2.27 授業開始 → 2.28 午前 ボランティアワーク at Balay Samaritano → 3.1 授業
→ 3.2 午前 ボランティアワーク at Balay Samaritano → 3.3/3.4 ボホール島観光 →
3.5 授業 → 3.6 午前 ボランティアワーク at Missionaries of Charity → 3.7 午前 ボ
ランティアワーク at Missionaries of Charity → 3.8 授業 → 3.9 午前 マンゴー工場見学
/午後 Language Academy 最終プレゼン発表会/お別れ会 → 3.10 フィリピン出発・日本到
着

みんなも興味持ったら外国行こう！！！！

英語レッスン

サンカルロス大学のバディたちと先生

語学研修にあたって、サンカルロス大学の学生が私たち一人一人にバディとして付いて、勉強の不安やわからないことを教えてくれたりしました。また、2週目の最後に英語でプレゼンテーションを作る際も、バディたちが協力してくれてそれぞれ作成しました。



これは、スモールディスカッションで生徒6人に対して先生1人のグループになっています。授業内容としては発音、ボキャブラリー、文法、プレゼンの仕方です。この写真では決められたお題にそってプレゼンを作成しみんなの前で発表している場面です。みんなプレゼンの作成に頭を抱えていました。また、単語が書いてある紙を見て発音の練習をしその後みんなの前で発表します。慣れない舌の使い方ですうまく発音できないことが多々あります。

フィリピンは日本と違い、先生と学生と一緒に授業を作り上げていて、日本よりも学力が伸びやすい環境であるということ学びました。



ボランティアワーク

ストリートチルドレン

施設の子どもたちのご飯を作って食べさせてあげたり、一緒に遊んで交流をしました。

児童養護施設

施設の幼い子どもたちのお守りをしたり、一緒に遊んだりして交流をしました。

ストリートチルドレン

私たちは、2/27 と 3/2、ストリートチルドレンのいる Balay Samaritano に行きました。施設には多くの子どもたちがいました。みんなとても元気で私たちが遊ばれてしまうくらいでした。子どもたちは鬼ごっこや、外でバスケットをして遊んでいました。Balay Samaritano には、他の日本の大学生やドイツなど他国からボランティアに来ている方もいて、施設の中は活気に満ちていました。子どもたちは、教会の運営する施設でご飯を頂いているので、食べる前はお祈りをします。また、ご飯はビスケットとミロというココアの味がする飲み物を飲んでいました。

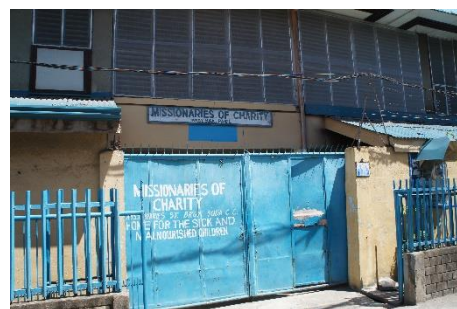


このような施設があることはとてもいいことですが、まだまだストリートチルドレンは沢山います。私たちができることは少ないけど、この二日間で色んなことを学ぶことができました。

児童養護施設

孤児院に行って実際に子どもと触れ合いました。日本の子どももフィリピンの子どももとても元気で、積極的に遊びに誘ってくる姿に変わりはありませんでした。

彼らはストリートチルドレンとは違い、住む家・食事・衣類が整った状態で生活をしていました。その環境の中で子どもたちはストレスを感じている子もおり、円形脱毛症や愛着障害を感じら



れる子どもがいました。

日本との違いで一番驚いたことは、児童相談所がなく、子供の受け入れが昨日今日で出来るということです。また、子どもの年齢は0歳から10歳までで、ある程度成長すると施設を出てストリートチルドレンになってしまう。その現実に日本の環境がどれほど良いものかを感じ学ぶことができました。

ボホール島旅行 & ドライマンゴー工場

ボホール島はセブ島からフェリーで2時間ほどかかります。ボホール島は、セブ島よりもリゾート感があり落ち着いたのどかな感じでした。初日は LOBOC CHURCH, LUNCH BUFFET at ABATAN RIVER CRUISE, Hanging Bridge, CHOCOLATE HILLS, BOHOL BEE FARM や海などへ



行き、2日間ボホールを満喫しました。チョコレートヒルズは、風も心地よく、絶景でとてもいい場所でしたが時期的にもまだ早く緑色だったのが少し残念でした。海はイメージ通りとても綺麗で透き

通っていました。蜂の巣を持ち、バギーに乗るなど、貴重な体験をし、綺麗な景色を見ることができ、とても素晴らしい経験ができました。

ドライマンゴー工場は、働いている人は、バイトが多かったですが一人一人の作業がとても速く感心しました。マンゴーをそのまま食べることはできませんでしたが、多くのドライマンゴーやお土産が安く買えるのでおススメスポットの一つです。

笑いと涙ありのお別れ会

セブ島滞在最後の夜はサンカルロス大学の大広場でお別れパーティーを大学側がこの2週間私たち日本人留学生に携わった先生方やバディが集まって会を開いてくれました。ビュッフェ形式のディナーで品数も多く、どの料理もとても美味しかったです。ご飯食べながら現地学生と他愛もない会話をしたり、この2週間どうだった？と話したり、交流が楽しかったです。セブ島伝統のダンスで盛大にお祝いしてくれました。どの衣装もすごく豪華でダンスもすべて揃っていて目が釘付けでした。特に液体の入ったグラスを頭や手に乗せながら踊り、キリスト教化された村人たちの生活を映し出す陽気で愉快的な踊りと多彩多様なフィリピンの民族舞踊を堪能しました。歌も歌唱してくれてエンターテイメント性溢れる濃い時間を過ごすことができました。「こんなにも私たちを歓迎してくれているんだ」と思いとても胸が熱くなり、この2週間は貴重な経験ができたと思いました。



編集者

編集長 山本玲子

副編集長 長谷部響香

- ・英語レッスン担当 門野敬介 松岡祐有樹
- ・ボランティアワーク(ストリートチルドレン)担当 木村竜登 児玉潤樹
- ・ボホール島アクティビティ・ドライマンゴー工場担当 斎藤慶典 伊佐治龍
- ・ボランティアワーク(児童養護施設)担当 北田菜緒 本田万稀
- ・プレゼンテーション・お別れ会担当 榊紀美 豊田美結